

浦島伝説

平成30年4月24日

第3号

心がそろった風景

はきものをそろえる
 心もそろう
 はきものもそろう
 ぬぐとときにそろえておくと
 はくときに心が乱れない
 だれかが乱しておいたら
 だまってそろえておいて
 あげよう
 そうすればきっと
 人の心もそろうでしょう

この詩は、校内のある場所に掲示されていますが、見覚えがありますか。長野県円福寺の住職、藤本幸邦さんの言葉と伝えられ、多くの企業や学校で取り上げられています。

きちんとかかとはがそろった靴。黄色のラインにスタンドをそろえて止めた自転車。詫間中学校ではすっかりおなじみの朝の風景ですが、「靴をそろえる」「自転車をそろえてとめる」ということは、ただそれだけのことではなく、奥深いものがあるようです。

新年度のいいスタートを切るために、まずは、自分の足元（行い）をしっかりと見つめることから始めましょう。



◎「はきものをそろえる」ことの効用◎

立ち止まって自分の足元を見ることで、自分が歩いてきた道、そして今から歩くべき道を見つめることにつながるのかも知れません。大阪市のある中学校では、まず部活動で靴をそろえることを徹底することにより、7年間で13の日本一を生み出す強豪校に変身したそうです。



今日からはじまる
 あなたに会えてよかった
 空が青く
 大きいことも
 あなたがいて気づいた
 この光もいま届いたばかり
 一億五千万キロのあなたから
 今日からはじまる
 何かいいこと
 みんなに会えてよかった
 すてきなものが
 そばにあること
 みんながいて気づいた
 いまもどこかで命が生まれる
 子犬も小鳥も草の芽も
 今日からはじまる
 何かいいこと
 わたしに会えてよかった
 胸の鼓動も
 ときめきも
 わたしがいて気づいた
 だれも知らない音だけ
 わたしの殻をやぶる音
 今日からはじまる
 何かいいこと

校内の掲示板（黒板）から